

## ねがいをこめた おし絵はごいた

さくらは、せいかつかの学しゅうで、「むかしのあそび」をしました。その中で、さくらが一ばん気に入ったのは「はねつき」でした。

ある日、さくらがおかあさんとかいものに出かけたときのことです。春日部えきのまえをとおりかかると、きれいないろいろのものをかざっていたが目にとまりました。



「わあ、とてもきれいな人形ね。」

するとおかあさんは、「よく見てごらん。これは、はねつきのときにつかうはごいたにはられたものなのよ。」

すると、おばあさんは、にっこりわらって、「ちよつとまつてね。」

といてとなりのへやにいきました。しばらくして、おばあさんがもってきたのは、おし絵はごいたでした。

「このはごいたは、さくらのおかあさんが子どものときにつくってもらったのよ。」

とおばあさんがいいました。

そのおし絵はごいたには、赤いきものをきて、ふじの花のかみかざりをつけた女の子のすがたがざられていました。よく見ると、おかあさんにているような気がしました。すると、おばあさんはこんなはなしをしてくれました。

「さくらのおかあさんは小さいとき、からだがよわくてね。それでげん気になりますようにねがいをこめて、しょく人さんが、一つ一つ心をこめてつくつ

と、いいました。さくらは、びっくりしました。

「このはごいたは、おし絵はごいたといつて、かざつてたのしむものなのよ。」

と、いいました。さくらは、このおし絵はごいたについて、もつとしりたくなりました。

お正月になり、さくらは、おばあさんのいえへとまりにいくことになりました。さくらは、おばあさんのうちで、はねつきをするのをいつもよりたのしみにしていました。

みんなではねつきをたのしんだあと、さくらは、あのきれいなおし絵はごいたについて、おばあさんにきいてみました。

「おばあちゃん、このまえ、はじめておし絵はごいたを見たんだ。とってもきれいなはごいただったのよ。おばあちゃんは見えたことある。」

てくれたんだよ。」

さくらは、むちゅうになつておばあさんのはなしをききました。

「できが上がつたおし絵はごいたのかおは、ふしぎとおかあさんのかおに見えてきて、いまでもたいせつにしているんだよ。」

まい年、いろいろどりにかざられたおし絵はごいたがたくさんならぶ「はごいた市」があるそうです。(こんど、おばあちゃんといっしょにはごいた市にいったみたいな。)と、さくらはおもいました。

